

# 市立病院新棟、実施設計と施工一体で300億円に

市立病院の新棟が、八か年事業として、実施設計・施工一体のDB方式で近く契約されます。これまでの公共工事は、基本設計↓実施設計↓施工の3段階方式。設計と施工を別の業者がチェックしつつ行うことで品質を確保してきました。今回は釧路市では初のDB方式。実質的に、業者に「丸投げ」になりますので、心配な点もあります。



## CM方式?ES事業? 次々提案される新たな方式

しかもここに来て、市は新たな契約方式を次々提案してきました。

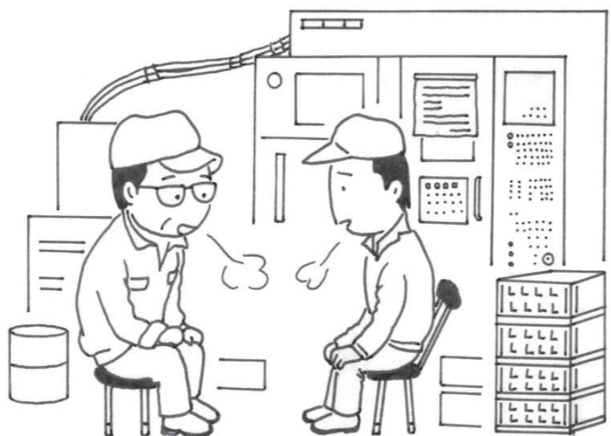
ひとつは、CM(コンストラクション・マネジメント)方式です。これは、市の立場に立って、DB事業者との交渉に立ち会い、市にアドバースしたり各種マネジメントをするコンサルタントを置くものです。約4千万円で山下PMCと契約しました。しかし、このコンサルを置くことで、DB業者との契約が市に有利なものになったと、検証できるのでしょうか?

さらに、予算議会ではES(エネルギー・サービス)事業の導入も提案されました。これは新棟のエネルギー部門だけを取り出して、一括して別会社に担わせるというものです。

最低限、電気などの施設の運転管理を委託する。場合によっては、相手の事業者にエネルギー部門の別棟を建ててもらい、施設はES事業者が所有、原材料の調達もES事業者が行い、

そこから市立病院が供給だけを受ける。ES事業者の提案如何で、どの範囲の仕事を発注するかすら、現時点ではハッキリせず、DB事業者との役割分担もあいまいです。多くの場合、エネルギーなどを専門とする大企業が対象ということになるでしょう。

しかも病院はこの導入をかなり以前から検討していたようですが、議会に説明したのは今回が初めて。議会としての審査はほとんどされていません。それなのに、4月には事業者からの提案を募るというのですから、やりかたそのものが乱暴です。



いずれにしてもこうしたやり方を次々導入すると、結果として市が契約・設計・施工・運営全体をコントロールすることが難しくなり、業者任せになってしまうことが懸念されます。

期限通りに実施設計が完了せず、市が契約を解除。設計業者と市との間で裁判にまで発展した市立病院の新棟問題。裁判では市が勝訴しましたが、結局完成していたはずの基本設計からやり直すことになって、5年度に、実施設計と施工を一体(DB方式)に、契約・発注することになりました。

## DB方式とは?

DB方式とは、設計(Design)と施工(Construct)全体を、一括して単一の事業者と契約する方式。設計部門をもつゼネコンや設計業者と建築会社の共同体などが受注することが多い。

単一事業者に発注することで、経費、工期の短縮が図れること。建築業者の独自の技術やノウハウを設計に生かせること。などのメリットが指摘される一方で、発注者である市の関与が薄くなってしまふこと。設計と施工という二者によるチェックが働かないなどのデメリットがあり、全体として事業者の有利な方向で工事が進みがちと言われる。

23年4月8日

村上かずしげ通信

発行 日本共産党市議団 23-5212